

Lib,

京都産業大学図書館報

v. 30, no. 1 (Apr. 1, 2003)

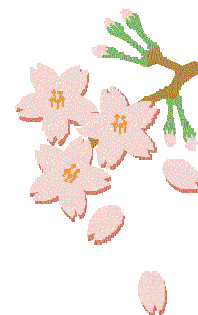
ホームページに掲載中 <http://www3.kyoto-su.ac.jp/lib/>



本学所蔵 賀茂葵祭行装 / 図より

巻頭言 図書館サービスの活用を	佐々木 利廣
特集 プロジェクトX	
ケズディとしての「プロジェクトX」	箕輪 雅美
「プロジェクトX」視聴記	黒田 直樹
チャレンジのすすめ	ロートマ ニール
「チャレンジ精神の源流」への期待	若松 正志
資料紹介	
ビデオ放映日程	

1	<連載> 自著を語る	
2	『菅原道真の実像』	所 功
	『お話・数学基礎論』	八杉 満利子
	図書館のとりくみ	図書館 HP 委員会 6
	<情報の探し方>	7
	法律分野雑誌 DVD 紹介	
4	JapanKnowledge 紹介	
5	いんふおめーしょん	8



図書館サービスの活用を

国内にしろ海外にしろ、我々が大学を訪問すると決まって訪れるのは大学図書館である。開架式図書館のキャレド、あるいは書棚の間の狭い通路に座り込んで夢中で本を読みレポートを書いている学生に遭遇することも珍しくない。もう30年も前だが、学部学生のときに、ある理由から大学図書館の地下書庫に初めて入ったときの感激は今でも鮮明に覚えている。ここに数日間寝泊りしてもいいと思った。いまでも、図書館には知的好奇心を刺激する独特の空気が漂っていると感じることが多い。

大学ランキングの指標としてしばしば蔵書冊数、図書館面積、図書館席数などが使われることがある。また学生一人あたりの蔵書数、図書館面積、座席数も重要である。産大図書館も図書館席数や学生一人当たり貸出冊数ではある程度の水準にある。しかしもっと重要なのは、学生が一年間にレファレンスカウンターでどれくらいレファレンス・サービスを受けたかの指標だろう。学生のニーズに合わせて適確な学術文献の検索や読書指導、レポートや論文の作成指導など、レファレンス・サービスは非常に広範囲である。学生からの要望が広範囲になればなるほど、そして高度になればなるほど、レファレンス・サービスのレベルもアッ

図書館長 佐々木 利廣

プしていく。欧米ではこうしたレファレンス・サービスを行うライブラリアンやキュレーターのポストは非常に高く、まさにプロフェッショナルとしての地位が確立している。

大学に入学するとすぐに、図書の貸し出しはもちろん、学術雑誌のコピー、CD-ROMやデータベースの利用、ビデオやDVDの視聴、そして読書やレポート作成などで図書館を利用することが多くなる。しかし図書館は図書や雑誌新聞、CD-ROMやビデオなど、いわゆるハードだけでできているわけではない。むしろ図書館職員によるサービスこそが重要な要素である。こうしたソフトを徹底的に活用してこそ図書館の達人になれる。

「京都のボランティア活動について調べたい」「マイクロソフトの慈善活動について調べたい」「雪印の最近の業績について知りたい」など、どんな質問でもいい。知りたいことがあれば、そしてどうすればよいかわからない場合はすぐにレファレンスカウンターに立ち寄るといい。学生一人あたりのレファレンス・サービス数が増加することが産大図書館をより進化させることにもなる。

(ささき としひろ 経営学部教員)

プロジェクトX

みなさんは「プロジェクトX・挑戦者たち」という、テレビ番組をご存知ですか？

戦後の疲れ果てた日本で、名もない人々が困難に立ち向かって果敢に挑戦する姿は、

全国各地で大きな反響と共感を呼び、心を揺さぶるものであった。

今回は、一般教育科目での開講にあわせて、特集を組んでみた。

ケーススタディとしての「プロジェクトX」

箕輪 雅美

みなさん、NHKの人気番組『プロジェクトX 挑戦者たち』をご存知ですか。番組を見たことがない人でも、中島みゆきが歌う主題歌『地上の星』を一度は耳にしたことがあるでしょう。この番組が取り上げるのは、戦後のエポックメイキングなプロジェクト成功の陰に存在した無名の日本人を主人公とする組織と群像の知られざるドラマです。

その『プロジェクトX』で過去に放映されたプログラムを上映し、毎回、関係者をゲストスピーカーとしてお招きする極めて興味深い講義が春学期に開講されます。これは実際にプロジェクトに関わった企業の方々、あるいは番組制作者の方々のお話を直接伺えるとても貴重な機会です。学生のみなさんには、強く受講をお勧めいたします。

もちろん『プロジェクトX』は、極めて上質なつくりの作品ですので、一編の物語として、それを鑑賞するだけでもみなさんに大きな楽しみをもたらしてくれるでしょう。しかし経営学者の立場から見ると、この番組に登場する多くの人々は、意識していた、いないに関わらず、経営戦略理論のすぐれた実践者でもあります。それゆえ、この番組は、良質な経営戦略のケーススタディとして利用することも可能なのです。ここでは『男たちの復活戦 デジタルカメラに賭ける』の回を題材に、ケーススタディとしての『プロジェクトX』の鑑賞法を簡単にご紹介しましょう。

今でこそ、従来の銀塩カメラを上回る売上を誇り、極めて身近な製品となったデジタルカメラですが、昭和56年にソニーが世界初の電子カメラを試作して以来、長い雌伏の期間が続いたことは、みなさんもお存知でしょう。経営戦略論には、製品にも生物と同じように「一生」が存在するという導入期・成長期・成熟期・衰退期からなるプロダクト・ライフサイクルと呼ばれる仮説が存在します。そして各々の段階ごとに、様々な戦略が提唱されています。このサイクルの中で最も難しいのが、製品を導入期から成長期へと押し上げる時期です。野生の生物と同じように、多くの製品は赤ちゃんの時代、つまり導入期にこの世から姿を消してしまうからです。デジタルカメラに賭けたカシオの技術者の挑戦は、まさに導入期から成長期へとサイクル

をシフトさせるための困難な戦略の実践として読み解くことができるのです。

ここではみなさんに番組を見るための基本的な概念装置を提供するにとどめ、実際にどのような戦略が採用されたのかを詳しく述べることはしません。講義の中で、自分の答えを見つけ出してください。

(みのわ まさみ 経営学部教員)

---/*---/*---/*---/*---/*---/*---プロジェクトX---

「プロジェクトX」視聴記

黒田 直樹

NHKの番組「プロジェクトX」が、これまでの国内の色々なプロジェクトの成功の記録を中心に放送されている。もちろん、番組に登場する感動的な成功例は冰山の一角であって、もっと多くの成功例がある一方で、このようにはならなかった更に多くの不成功例があったであろうということは想像するに難くない。特に技術的な研究開発に関わる競争においてはそうであろう。今、日本社会のアクティビティはバブル経済が崩壊して以来、経済活動を中心に谷底を這うように低迷している。戦後の復興期、成長期を通して少・青年期として育った筆者には当時の身の回りの生活苦とそれを克服して発展する情景が日常であったことを思い出す。その結果、物をつくれればみな売れたと言う印象がある。今にして思えば、この時期に多くのプロジェクト成功の例が生まれたのである。その前提になる条件は「成長」であろうと思う。それが無ければ血の出るような「工夫」と「努力」も「成功」には導かれなかったであろう。私は更にこのような「成長」条件の上に「政治理論」や「経済理論」や「教育理論」などの「近代」の手法が有効に働いていたからであると考えたい。

もう一つ、この時代、避けられないのかもしれないが、金融市場経済の「おかしさ」と「危うさ」である。今回、番組「プロジェクトX」の中から「技術的な研究開発に関わる競争」という方面から2つのテーマをビデオで見た。「男たちの復活戦 デジタルカメラに賭ける」と「液晶 執念の対決」である。これらを見ていて誰もが感じる感動はそのことから来るものである。つまり、われわれが本当に生産すべきものは「金融的価値」であるよりは「ものの価値」の生産にあるのではないかと「身体」が感じるところから来るものであろう。どうも、「近代」の手法を「身体(現状)」

が許さないようなことになって来ているのではないだろうか。日本の現状は、「近代」の手法が有効に働かなくなった姿であろうと思ったりする(勿論それだけではない)。もの作りを忘れてマネーゲームに走り出すとその社会は危ない。デフレ退治のために「インフレを仕掛ける」のも近代的手法なのであろうが、不完全に過去の成果にしがみつより「デフレ」に合わせて日本を値下げして、意識を成長期ではなく成長期以前に戻した方が順当なのではないかと思う。振り出しに戻って、巻き直せ。「プロジェクトX」に記録されているものは、その源の姿であろうと思う。今回見たのは技術者の登場する開発の成功例だが、感想をひとことで述べれば、それは「もの作りが基本」ということである。

(くろだ なおき 理学部教員)

---/*---/*---/*---/*---/*---/*---プロジェクトX---

チャレンジのすすめ

- 「プロジェクトX」視聴への提言 -

ロブ トーマス ニール

NHKのホームページによると、「プロジェクトXは、熱い情熱を抱き、使命感に燃えて、戦後の画期的な事業を実現させてきた『無名の日本人』を主人公とする『組織と群像の知られざる物語』である…。今も記憶に新しいあの社会現象、人々の暮らしを劇的に変えた新製品の開発、日本人の底力を見せつけた巨大プロジェクト…戦後、日本人は英知を駆使し、個人の力量を“チームワーク”という形で開花させてきた。」とある。

私の見た番組に限って言えば、確かに各番組のテーマの共通点は、ある目的を果たす為の努力の物語りだ。けれども、私が面白いと思うのはチームワークではなく、各番組の主人公が、上司や同僚が「これは無理だ」、「それは止める」と言っても、アドバイスを無視して、勝手に自信を持って頑張り貫いたということです。

つまり“チームワーク”によって日本の経済が発展して来たという通説よりも、個人の努力とオリジナリティの結果ではないかと思う。

確かに、この番組は就職に向かっている学生にとって、貴重な教材になるであろう。現代の雇用主は平凡な社員よりも、オリジナリティをもった人材を求めていることは確かだ。もちろん「チーム」でスムーズに働ける資格が不可欠だが、物事が上手く行っていない時は、その事実を認めて、全く別の観点からその問題に取り組み、解決法を考え出すというチャレンジ精神が必要だと思う。

この番組の悪い点は、殆どの主人公が男性であることだ。出ている女性の殆どは主人公の妻または裏でサ

ポートした人なので、現代の女性に良い「Role Model」になれる人がいない。もちろん戦後の時代を写しているので、その当時は確かに女性の役割が今よりかなり絞られていたから仕方がないかも知れないが。

さて、この番組を就職活動にいかにかすかという視点から考えて見ると、ただ受身的に見るだけでなく、(1)見る前にタイトルだけをヒントとして、どういった問題が出て来るかを推定して、その推定した問題をどうやって解決できるかにチャレンジしてみることも大切だと思う。その後、番組を見ながら自分が推定したものと実際はどれ程違うかを見ながら考える。こうして自分のチャレンジ精神を旺盛にする為の努力を試してみる。又、(2)作業中に生じた問題はどんな過程で解決したかをしっかりと観察する。部下がアイデアを考え出した際、だれに先に伝えたか。先ず上司であったか、それとも同僚であったか。問題がいかにスムーズに迅速に解決されたか、されなかったかをクリティカルに分析する等。

以上が私の「プロジェクトX」に関する感想である。就職活動に少しでもお役に立てば幸いである。



(Robb, Thomas Neil 外国語学部教員)

---/*---/*---/*---/*---/*---/*---プロジェクトX---

新規開講科目

「チャレンジ精神の源流」への期待

- 「プロジェクトX」というドラマを超えて - 若松 正志

このたび、一般教育研究センターの開講科目として、NHKで放送中の人気番組「プロジェクトX」の視聴と、それに関わった人の講義を合わせた授業「チャレンジ精神の源流」が始まるという。「プロジェクトX」は、実話をもとに特定のテーマに挑戦した人たちの努力と成功を描き、視聴者に感動をもたらすドラマである。その感動にひたることも精神的にはよいのだが、ここではさらに一歩進んだ見方を考えてみよう。

平成14年1月15日放送の「王が眠る 神秘の遺跡～父と息子・執念の吉野ヶ里」(図書館にDVD所蔵)は、吉野ヶ里に燦然たる文化があることを信じて独力で発掘・研究していた高校教員の父と、父が亡くなったあと、県の職員として、工業団地建設を前提とする吉野ヶ里の発掘を行った息子、さらには彼らを取りまく人々(アルバイトの作業員・建設側の現場監督)を描いたもので、ブルドーザーによる開発が始まる直前に、青ガラスの管玉や有柄銅剣などが発見され、地域の王の墓だということになり、最終的には関係者もふくめ、吉野ヶ里遺跡の重要性をみんなが認識し、この遺跡は保存・活

用されることが決まった。ドラマチックな展開・人々の認識の変化などは、事実にもとづくものである。しかしここには、あえてふれていない問題がある。それはすなわち、佐賀のこの地域の地価、すなわち土地の利用価値がそれほど高くなかったことである。このことは、平城京の長屋王跡が保存できなかった（デパートが建った）ことと比べるとはつきりわかる。すなわち、人の心の問題だけではなく、地価という経済の原理が、遺跡保存の成否の鍵だったのである（以上、椎名慎太郎『遺跡保存を考える』岩波新書、1994、参照）。放送の内容を、文献などで調べることで、このように別の側面が見えてくるのである。

さらに、この授業「チャレンジ精神の源流」には、関係者も来られるという。実はこのスタイルは、昨年4月に、進路センター主催の講演会でも行われた。その時は、「プロジェクトX」の「魔法のラーメン 82億食の奇跡～カップめん・どん底からの逆転劇～」(平成13年10月16日放送。DVDは図書館所蔵)を視聴し、カップヌードルの販路開拓に努力した秋山晃久氏の講演を聞いた。講演後質問への回答として、日清食品は、カップラーメンの国際化という状況のなかで、宗教的タブー・法律の遵守などの側面から、外国人を加えた現地生産方式をとっていることなどが、明らかにされた。放送だけではまったくわからないことである。この授業でも、みなさんが、ドラマとは異なる角度から、積極的な質問を行い、理解を深めることを期待したい。

(わかまつ まさし 文化学部教員)

---/*---/*---/*---/*---/*---/*---プロジェクトX---

資料紹介

戦後日本を築き上げた名も無き人々の挑戦の物語を描き、元気を喪失している多くの日本人に明日への勇気を与えた「プロジェクトX 挑戦者たち」については、番組のビデオ(1期10巻, 2期10巻, 3期10巻, 4期9巻), DVD(1期9巻, 2期10巻, 3期10巻, 4期9巻), 書籍版がそれぞれ本学図書館に所蔵されています。ビデオとDVDについては1階視聴覚カウンターで申し込んでください。また一般教育科目「チャレンジ精神の源流」の受講生は、ぜひビデオやDVDだけでなく書籍版の(1)『プロジェクトX挑戦者たち(第1巻～第16巻)』の関連章を一読ください。また興味をもったプロジェクトについては、ぜひ巻末の詳細な参考文献リストを利用してほしいものです。また(3)には「チャレンジ精神の源流」で講演する実際の担当者(富士山リーダーの伊藤庄助, 青函トンネルの大谷豊二, 三原山噴火の秋田壽)のリーダーとしての言葉が凝縮されています。「プロジェクトX」の番組についてはNHKのホームページ(<http://www.nhk.or.jp/projectx/index.htm>)をチェックしてください。

「プロジェクトX 挑戦者たち」は色々な視点から解

釈することができます。戦後の産業史や経営史, 新製品開発過程や日本の特徴, リーダーシップ, モチベーション, 組織変動や組織変革, もの造りや人造りへの反省や評価, 比較文化, などはその一例です。(4)の田尾雅夫「プロジェクトX, もう一つの見方」は戦後経営史研究としての資料的価値を評価しながらも, 過去形で語られるプロジェクトXによって懐旧と鎮魂に浸りながら後ろ向きになりつつある現代の世相に警鐘を鳴らしています。また(4)では日本ビクター, 鹿島建設, 富士写真フイルムの中堅や若手技術者の論稿から「もの造りへの情熱」が失われてないことを強調しています。(5)は「夢」が人びとを動機づける働きについて過去のモチベーション論は何の説明もできず動機づけのミッシング・リンク(失われた環)になっていることを踏まえ, プロジェクトXを素材にモチベーションの夢理論を構想しようとしています。(6)はチーフ・プロデューサー今井彰へのインタビュー調査をもとにプロジェクトXがどのように創られているかを明らかにしようとしています。

いずれにしても, 新しい課題に挑戦し自分を懸けることが見つからず, またそうした機会もない学生に対して 夢中になるためのヒントを与えてくれるのが「プロジェクトX挑戦者たち」です。産大図書館ホームページ上の雑誌記事索引から, ここに紹介した以外にも多くの文献を検索することができます。

所蔵資料

- (1)NHKプロジェクトX制作班編『プロジェクトX 挑戦者たち』NHK出版
- | | |
|-----------------|-------------------|
| 第1巻 執念の逆転劇 | 第9巻 熱き心, 炎のごとく |
| 第2巻 衝舌への舞台裏 | 第10巻 夢遙か, 決戦への秘策 |
| 第3巻 翼よ, よみがえれ | 第11巻 新たな伝説, 世界へ |
| 第4巻 男たちの飽くなき闘い | 第12巻 起死回生の突破口 |
| 第5巻 そして, 風が吹いた | 第13巻 願いは届け 運命の大勝負 |
| 第6巻 ジャパンパワー, 飛翔 | 第14巻 命綱ナ ゼロからの出発 |
| 第7巻 未来への総力戦 | 第15巻 技術者魂よ, 永遠なれ |
| 第8巻 思いは国境を越えた | 第16巻 開拓者精神, 市場を制す |
- (2)須磨久善・高野甲子雄・山口良治・今井彰『プロジェクトX ザ・マン』NHK出版, 2002
- (3)今井彰『プロジェクトX リーダーたちの言葉』文藝春秋, 2001
- (4)「特集NHKテレビ放映の「プロジェクトX」を巡って」『労働の科学』57(1), 2002
- (5)高橋潔・金井壽宏「モチベーション論のミッシング・リンク - NHK「プロジェクトX」をいかに解釈するか」『一橋ビジネスレビュー』50(1), 2002
- (6)今井彰・柳川高行「NHKプロジェクトXはどう創られているのか」『白鷗大学論集』16(1), 2001

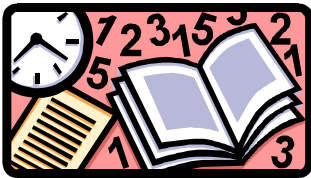
一般教育科目「チャレンジ精神の源流」

回数	授業日	テーマ	回数	授業日	テーマ
第1回	4月 11日	授業の進め方, 概要	第8回	6月 6日	炎上 男たちは飛び込んだ ～ホリニュー・ジャパン・伝説の消防士たち～
第2回	18日	プロジェクトXへの思い	第9回	13日	液晶 執念の対決 ～瀬戸際のリーダー・大勝負～
第3回	25日	巨大台風から日本を守れ ～富士山頂・男たちは命をかけた～	第10回	20日	幻の金堂・ゼロからの挑戦 ～薬師寺・鬼の名工と若者たち～
第4回	5月 9日	男たちの復活戦 デジタルカメラ に賭ける	第11回	27日	絶体絶命 650人決死の脱出劇 ～土石流と闘った8時間～
第5回	16日	友の死を越えて ～青函トンネル・24年の大工事～	第12回	7月 4日	ルマンを制覇せよ ～ロータリーエンジン・奇跡の逆転劇～
第6回	23日	全島一万人 史上最大の脱出作 戦～三原山噴火・13時間のドラマ～	第13回	11日	プロジェクトX製作スタッフからのメッ セージ
第7回	30日	通勤ラッシュを退治せよ ～世界初, 自動改札機誕生～			

「プロジェクトX」放映予定

日時	1回目放映(午後1時15分～2時00分)	2回目放映(午後2時5分～2時50分)	書籍版 関連巻 上:1回目 下:2回目
4月 23日(水)	運命の最終テスト ～ワープロ・日本語に挑んだ若者たち～	国産コンピューター ゼロからの大逆転 ～日本技術界 伝説のドラマ～	第16巻 第14巻
5月 7日(水)	巨大台風から日本を守れ ～富士山頂・男たちは命をかけた～	東京タワー・恋人たちの戦い ～世界一のテレビ塔建設・333mの難工事～	第1巻 第4巻
14日(水)	男たちの復活戦 デジタルカメラに賭 ける	誕生! 人の目を持つ夢のカメラ ～オートフォーカス・14年目の逆転～	第15巻 第4巻
21日(水)	友の死を越えて ～青函トンネル・24年の大工事～	厳冬 黒四ダムに挑む ～断崖絶壁の輸送作戦～	第1巻 第3巻
28日(水)	全島一万人 史上最大の脱出作戦 ～三原山噴火・13時間のドラマ～	あさま山荘衝撃の鉄球作戦	第2巻 第13巻
6月 4日(水)	通勤ラッシュを退治せよ ～世界初, 自動改札機誕生～	執念が生んだ新幹線 ～老友90歳・戦闘機が姿を変えた～	第10巻 第2巻
11日(水)	炎上 男たちは飛び込んだ ～ホリニュー・ジャパン・伝説の消防士たち～	ツッパリ生徒と泣き虫先生 ～伏見工業ラグビー部・日本一への挑戦～	第9巻 第5巻
18日(水)	液晶 執念の対決 ～瀬戸際のリーダー・大勝負～	窓際族が世界規格を作った ～VHS・執念の逆転劇～	第8巻 第1巻
25日(水)	幻の金堂・ゼロからの挑戦 ～薬師寺・鬼の名工と若者たち～	王が眠る神秘の遺跡 ～父と息子・執念の吉野ヶ里～	第5巻 第13巻
7月 2日(水)	絶体絶命 650人決死の脱出劇 ～土石流と闘った8時間～	よみがえれ, 日本海 ～ナホトカ号重油流出・30万人の奇跡～	第11巻 第5巻
7日(月)	ルマンを制覇せよ ～ロータリーエンジン・奇跡の逆転劇～	ロータリー47土の闘い ～夢のエンジン・廃墟からの誕生～	第5巻 第5巻

上映場所: 図書館1階図書館ホール(ただし, 5月7日, 5月14日は, グループ視聴覚室102で上映します)



<図書館のとりくみ>

これまで、図書館で行われている各種プロジェクト及び委員会の取り組みを、利用者である学生に広く紹介します。

図書館ホームページリニューアルについて

1995年10月から公開した図書館ホームページは若干の変更を加えたものの基本的には初期のデザインを踏襲し、すでに7年が経過していました。そこで昨年11月よりトップページのデザインを更新するため、検討委員会を立ち上げました。メンバーにはデザイン部の上田さん、新聞局の田中さん、中原さん、広報課・情報センター・図書館の職員が参加しました。デザイン部の上田さんが委員会での意見を元に画面を作成しながら、時には意見が合わないこともありましたが、数回の修正後、2月末の最終委員会で全員が納得したかたちでまとめることができました。

トップページデザインのコンセプトは、シンプルで見やすく、アクセスが容易であり、そして親しみやすいデザインです。

シンプル

色は本学HPと同じブルーを基調とし、背景の色はカラーにせず無地で内容の見やすさを重視しました。そして画像は最小限にし、各ページのスタイルを統一しました。

容易なアクセス

フレーム形式を利用して、蔵書検索を始めとする必要なサービスを常時左側のメニュー部に配置し、クリックすることにより、メインに詳しい説明を表示するか、別画面を表示するようにしました。またサイトマップや、メイン部の上にページの位置情報でアクセスが便利ないようにしました。

親しみやすいデザイン

機能性の良さだけでは無味乾燥なので、トップの図書館の外観やカウンター、書架などの写真を載せることによって、図書館の雰囲気を十分に醸し出し、親しみやすいデザインとなっています。

トップページ構成

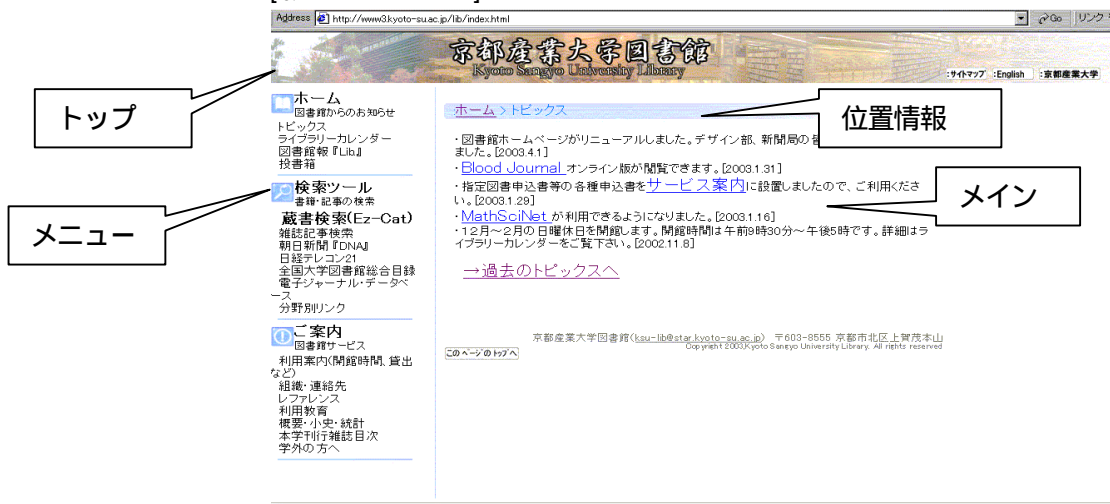
- トップ部
 - サイトマップ、English・京都産業大学ホームページへのリンク
 - メニュー部
 - ホーム：トピックス、ライブラリーカレンダー、図書館報Lib.、投書箱
 - 検索ツール：蔵書検索(EZ-Cat)、雑誌記事索引、朝日新聞DNA、日経テレコン21、全国大学図書館総合目録、電子ジャーナル・データベース、分野別リンク
 - ご案内：利用案内、情報検索、利用教育、図書館の組織・連絡先、本学刊行雑誌目次、学外の方へ

当初、学生の協力をどれだけ得られるか心配していましたが、委員会の翌日には画面の修正案がメンバーに連絡されたり、新聞局の提言をいただくというような学生の熱心な取り組みを得ることができました。このトップページデザインは、学生の主体的な協力があったもので、大変感謝しています。

今後、デザインに負けないように内容を充実させていきたいと思っています。どうぞご期待ください。

(図書館HP委員会)

[新 トップページ]



法律分野雑誌DVD紹介

法学情報を入手する資料として、雑誌論文・記事および判例は、不可欠のものです。雑誌のなかでも特に『ジュリスト』『判例タイムズ』『旬刊金融法事情』『労働判例』の4誌は、基本的な雑誌です。

今回は、これらの雑誌のDVD版をご紹介します。DVD版としての4誌の共通点は、次のようなものです。

雑誌論文・記事、判例が多数の検索項目によりアクセス可能。審級関係・論文評釈・引用判例が、瞬時に表示できる。検索結果を、誌面そのままパソコンの画面上に参照でき、印刷出力も本誌コピーそのものを入手可能。次に、個々の雑誌について特徴をあげてみます。

【ジュリストDVD】

有斐閣発行の一般的な実用法律雑誌。創刊号(1952年)～1200号(2001年)までに掲載された論文・記事・評釈を収録範囲とし、検索項目には、『ジュリスト』独自の事項分類があり、瞬時の検索ができる。また、関係論文として検索した判例を引用している論文・評釈を表示し、逆に、論文・評釈に引用された判例の一覧も表示している。

【判例タイムズDVD電子復刻版】

判例タイムズ社発行の法律専門家むきの雑誌で各審級の主要な判例を解説つきで紹介。

創刊号(1950年)～1000号(1999年)までに掲載された判例・解説・論文・記事を対象としている。

検索項目において判例の解説があり、理由全文・解説全文に含まれるあらゆる語句から検索が可能。

【労働判例DVD】

産労総合研究所発行の雑誌で、労働事件に関する重要な判例と専門家による解説・論文を網羅している。創刊号(1967年)～800号(2001年)までを、収録範囲とし、特に判例・解説については、任意語による『労働判例』独自の高速全文検索ができる。

【旬刊金融法務事情DVD】

金融財政事情研究会が発行の雑誌で、金融法務分野の権威ある論文と解説を掲載。創刊号(1953年)～1600号(2001年)までを収録。

論文・記事・判例・解説の検索に、実務分類の項目があり瞬時に検索が可能。

* 利用受けは、3階レファレンスカウンターです。

JapanKnowledge紹介

4月より契約データベースとしてJapanKnowledgeが利用できるようになりました。これは他の雑誌・新聞記事本文が主になっているデータベースと違い、百科事典、辞書、新語辞典などの参考図書を始め、ニュース情報、信頼できるWEB情報を横断的に検索できる総合レファレンスツールといえるものです。検索は、20種類以上の事典を始めとするツールを横断検索(ワンルック)によって、一度に多様な情報源からのデータを知ることができます。

【収録内容】

- | | |
|---|---|
| 日本大百科全書 全26巻
大辞泉
Encyclopedia of Japan
プログレッシブ英和中辞典
プログレッシブ和英中辞典
現代用語の基礎知識2002
日経B Pデジタル大事典 | Multimedia Internet大事典
60万冊の書誌データ・b k 1
世界の書籍・amazon.co.jp
アジア&EU国際情報
JKN Who's Who
Internet New Words
週刊「エコノミスト」 |
|---|---|

【利用方法】

図書館HPの検索ツール JapanKnowledge からアクセスします。同時アクセス数は2IDです。

検索例

例えば、「フセイン」と「戦争」を全文対象として、and演算で検索すると、「ことがらで探す」、「ことばで探す」、「ニュース&論説を探す」、「インターネットから探す」の4つに分かれて検索一覧が表示されます。この中の「ことがらで探す」を見ると、日本大百科全書から該当項目が10項目、現代用語の基礎知識から2項目がヒットしています。この中のイラクをクリックすると、検索結果画面には、関連情報がリンクして、総合的な知識を得ることができます。レポートのテーマについての概要や関連情報を知ることができます。どうぞご利用ください。

<検索結果一覧>



教員文庫寄贈図書一覧

寄贈順 (~3/31)

河野勝彦 (文化学部)

死と唯物論 青木書店

北澤義之 (外国語学部)

国家・部族・アイデンティティ : アラブ社会の
国民形成 アジア経済研究所

地域学を求めて 田中忠治先生退官記念論文集刊
行委員会

現代中東の国家と地方 () 日本国際問題研究所

20世紀のアメリカ体験 青木書店

冷戦下・アメリカの対中東戦略 第三書館

中東 自由国民社

民族共存の条件 早稲田大学出版部

所功 (法学部)

近現代の「女性天皇」論 展転社

天皇の人生儀礼 小学館

靖国の祈り遙かに 神社新報社

菅原道真の実像 臨川書店

山本啓二 (文化学部)

ギリシア思想とアラビア文化 勁草書房

小林一彦 (文化学部)

小津家古筆切聚影 汲古書院

中世歌合伝本書目 明治書院

前長門守時朝入京田舎打聞集全釈 風間書房

無名抄 三弥井書店

冷泉為秀筆詠歌一体 和泉書院

続拾遺和歌集 明治書院

八杉満利子 (理学部)

論理パズルとパズルの論理 遊星社

情報系の数学入門 オーム社

お話・数学基礎論 講談社

若松正志 (文化学部)

日蘭交流史その人・物・情報 思文閣出版

沢井淳弘 (文化学部)

ニュージーランド植民の歴史 昭和堂

筒井清子 (経営学部)

賃金管理 啓文社

現代の雇用問題 総合労働研究所

高齢化時代 生きがい・労働・生活 中央経済社

現代の労務管理 ミネルヴァ書房

日本的経営とドイツの経営 千倉書房

日本的経営の解明 千倉書房

杉本明 (文化学部)

嵐 晃洋書房

山岸博 (工学部)

図説野菜新書 朝倉書店

いんぷおめーしょん

👉 複写機が新しくなりました！

2階3階地下1階の複写機の機種が変わりました。
館内の券売機でコピーカードを購入しご利用ください。
500円(55度数)・1000円(110度数)の2種類です。
1000円の券売機はレシートが発行されます。

従来機種のコピーカードをお持ちの方は2階3階
に設置の各1台の複写機をご利用ください。

なお、従来機種の館内設置は春学期中を予定してい
ますのでご注意ください。

👉 平成15年度「図書館利用教育」の実施 について

春学期中に、新入生、ゼミ受講生、一般学生、新任
教員対象の利用教育を以下のとおり実施します。

・新入生対象：5月中に「コンピュータ基礎実習」
「基礎情報処理実習」等必修科目の情報教育授業の中
でクラス単位で実施。内容は利用案内・地下書庫案内・
オンライン目録EZ-Catの検索実習など。

・ゼミ受講生対象：4月から7月に、ゼミでの発表
やレポート・論文を書くための文献探索法およびCD-
ROMやインターネット検索実習をクラス単位で実施。

・一般学生対象：6月に『新・図書館の達人』ビデ
オの中から「レポート・論文作成法」の上映と「雑誌
記事索引」の検索実習をセットで実施する予定。実施
のご案内は館内に掲示します。

・新任教員対象：4月上旬から中旬に実施。内容は
利用案内やサービスの紹介・館内案内・データベース
の利用法・資料購入申込方法など。

なお、利用教育は年間を通して実施していますので、
詳細は2階3階のレファレンスカウンターでお尋ねく
ださい。

👉 春学期の開館時間について

春学期の平日は午前8時30分～午後8時の開館です
が、定期試験前日から定期試験終了前日の期間は午後
9時まで開館します。詳細はライブラリーカレンダー
をご覧ください。



発行 京都産業大学図書館
所在地 〒603-8555 京都市北区上賀茂本山
電話 (075)705-1446